

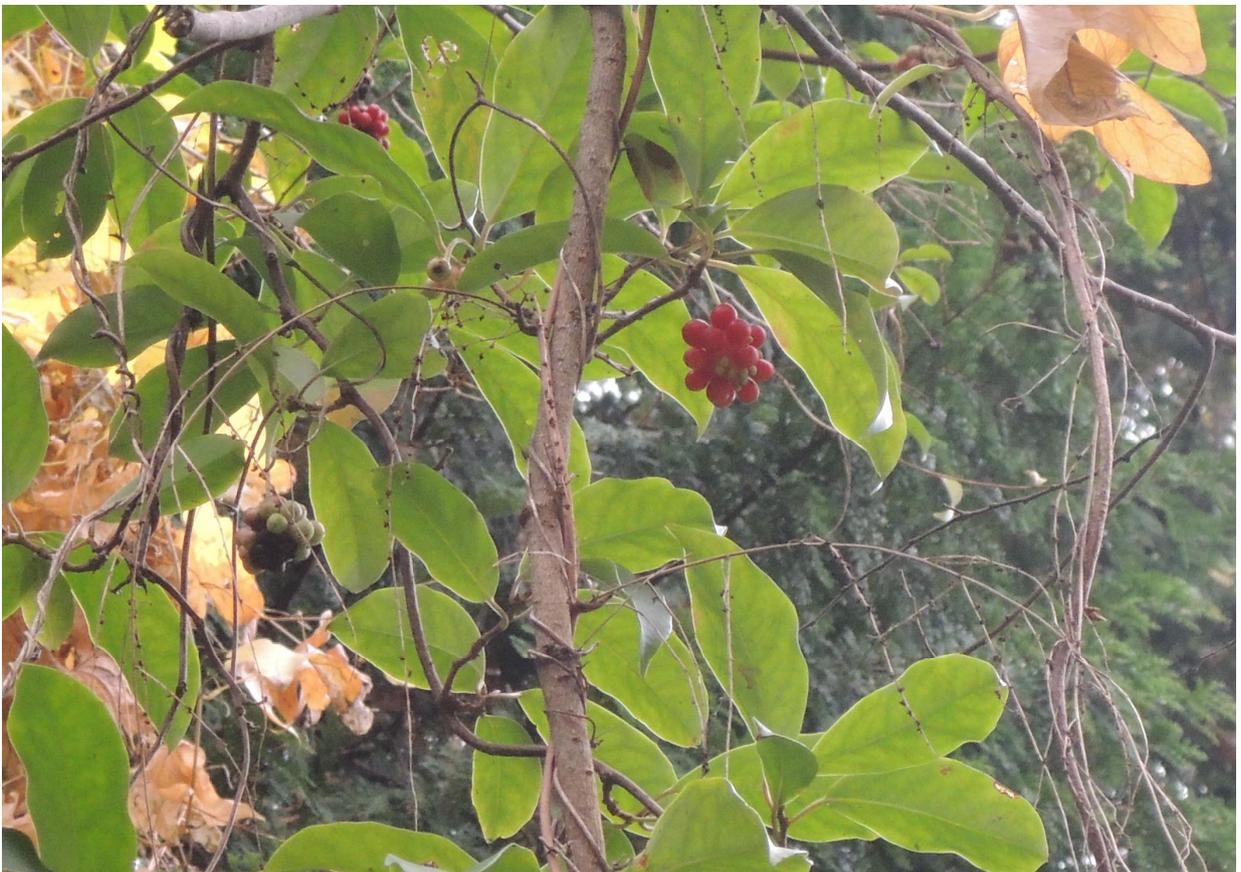
公園内で見られる植物

写真は11月9日（土）
自然観察会で見られた
植物です



ツルリンドウ（リンドウ科）

果実は液果となり、ほぼ球形で紅紫色。



サネカズラ（マツブサ科）

樹皮からとった粘液を整髪につかったので、美男葛の別名がある。



フユノハナワラビ (ハナヤスリ科)

シダ植物。冬に孢子葉をもたげ、花のようであるというのが和名の由来。



コマユミ (ニシキギ科)

ニシキギと同じもだが、枝にコルク質の翼がでない。紅葉と赤い実が美しい。



ヒサカキ (ツバキ科)

サカキの代用品として、枝葉を神事に使う。



キクバヤマボクチ (キク科)

ボクチは「火口 (ほくち)」の意味で、「ひうち石を打ちつけた火をうつし取るもの」のことで、本種の葉の裏面に密生する白い綿毛を集めて、利用したこと由来する。



ムラサキシキブ (クマツヅラ科)

美しい紫色の果実を紫式部にたとえたという説がある。葉は両面とも無毛。



ヤブムラサキ (クマツヅラ科)

ムラサキシキブと似ているが、葉の表面には微毛が散生し、裏面には白色の星状毛が多い。



ウスタビカ（ヤママユガ科）

幼虫はサクラやコナラの葉を食べる。



ソヨゴ（モチノキ科）

かたい葉が風にそよいで音をたてるからといわれる。